「新宮市熊野川町デマンドタクシー」導入について

住民の声を聴きながら公共交通体系を再編

新宮市企画調整課

人口減や高齢化、過疎化で、公共交通の充実を求める要望が県下各地で聞かれます。新宮市では、熊野川町の公共交通体系の見直しを行う中で、地域住民の声を聴きながらデマンドタクシーを導入しました。「第12回わかやま住民要求研究集会」第３分科会での報告からレポートします。報告者は新宮市企画調整課の竹内係長と塚主事です。

報告する（竹内さん、塚さん）

まず、新宮市の概要と再編に至った経緯について、簡単にご説明をさせていただきます。

本市は平成17年10月に旧新宮市と旧熊野川町が合併し、新市が誕生いたしました。

海岸沿いの平地には人口の94％が居住する市街地が帯状に広がっており、地域面積の90％以上を占める山間地域に農村部が点在している地域です。平成16年７月には紀伊山地の霊場と参詣道として世界遺産にも登録され、観光客、とりわけ訪日外国人旅行者に人気の場所となっています。

しかし、地域の基幹産業である木材産業の衰退や大手企業の撤退などもあり、人口減少や高齢化が進行し、特に山間部ではその傾向が顕著な地域です。

再編に至った経緯ですが、日本全体としても人口減少、高齢化社会は進み、高齢者の免許返納の増加、運転手不足の深刻化、また社会情勢の変化による公的負担の増加など、公共交通の維持確保は容易ではなくなってきています。一方で、地域公共交通の維持確保は交通分野の課題のみにとどまらず、まちづくりや観光振興、さらには健康福祉、教育など様々な分野に大きな影響をもたらします。地域活性化のため、地域公共交通の維持確保が重要となっています。

利用実績が少ない公共交通の見直しに着手

新宮市では平成30年度より公共交通の再編に着手し、現状調査などを実施。バスやタクシー事業者など関係機関との協議や意見交換を実施する中、まずは交通不便地域である山間部の熊野川町から再編に取り掛かることにしました。

熊野川町は市北部に位置する山間地で、面積も広く、集落が点在する地域です。デマンドタクシー導入前の公共交通事情は国道168号線を民間バス事業者の幹線路線バスが運行するほか、幹線に接続する支線路線バス、行政バスなど複数の交通事業を実施していました。

しかし、バスは「空気を運んでいる」と言った厳しいご意見をいただくほど、利用実績が少ない状況でした。熊野川町日足地区には行政局、診療所、商業施設などがあり、熊野川町民の日常生活の拠点となっていますが、通学通院、

わかやま住民と自治
発行／和歌山県地域・自治体問題研究所
和歌山市太田2丁目14-9　太田ビル203号
TEL･FAX 073-488-3127
jichiken@crux.ocn.ne.jp　2023年 3月号
2023年2月25日発行　第346号　（月300円）

目　次

「新宮市熊野川町デマンドタクシー」導入について
住民の声を聴きながら公共交通体系を再編
新宮市企画調整課…… 1
給食スマイルプロジェクト　～県産小麦そだて隊！～
給食スマイルプロジェクト代表　多田　寿江…… 5
県下各地から④
安心･安全な水道行政は、市民に支えられてこそ
和歌山市市会議員　南畑　幸代…… 8

買い物などのため、新宮市街地への移動需要もありました。

面積が市全体の約70％を占め、人口約1，100人のおよそ2人に1人が高齢者であり、面積も広く、高齢化が著しく進んでいる熊野川町において、日常生活における移動手段の確保は非常に重要な課題であり、地域に見合った便利で持続可能な公共交通、交通体系を整備する必要がありました。

熊野川町での公共交通再編に向けて、再編案を作成するにあたり、まずは熊野川町地域における公共交通の利用実態や課題、住民ニーズを把握するために令和元年6月に熊野川町で住民アンケートを実施いたしました（**資料1①**）。

アンケート調査は令和元年6月21日から7月5日の15日間で、熊野川町に住民登録している15歳以上の方1，202名を対象に実施。625名、約半数（52％）の方に回答いただきました。

アンケート結果では、路線バス利用者は全体の1割強にとどまり、主な移動手段は自家用車によるものでした。路線バスの主な利用者や目的は、高齢者の通院や学生の通学で、それ以外の利用はほとんどなく、路線バスを利用しない理由については、車で移動できるからというのが最も多いものでした。それ以外では運賃が高い、便数が少ない、自宅からバス停まで遠いなどの意見が多くみられました。では「利用しない理由が改善されたらバスに乗りますか？」との質問に対しては、改善されても乗らないと回答された方がほとんどでした。そのため、再編にあたっては路線バス以外の新たな手段として熊野川町の各地へ乗り継ぎすることなく、自宅または自宅周辺から目的地にドアツウドアでの移動ができるデマンドタクシーの導入に向けて検討することになりました。

資料１　熊野川町地域における公共交通見直し経過

① 住民アンケートの実施と素案作成（令和元年6月～7月）

【アンケート結果の概要】
- 路線バス利用者は１割強、主な移動手段は自家用車
- 主な利用者と目的は、高齢者の通院と学生の通学
- 利用しない理由は、車で移動できる。
  それ以外では、運賃が高い、便数が少ない、バス停まで遠いなど

↓

◆素案：バスの支線路線（小口線、篠尾線、玉置口線）を廃止し、デマンドタクシー（事前予約制乗合タクシー）を導入

② 住民ヒアリングでの説明と住民の意見聴取（令和元年10月）

【住民意見の要点】
- 運賃は100円均一運賃負担を少なくしてほしい
- 熊野川町以外への直行便を運行してほしい
- 休日も運行してほしい
- 医療センターへの通院タクシーは存続してほしい
- 行政バスの一部は継続してほしい
- 小口方面の観光客の移動手段は、デマンドでは補えない
- 高齢者のタクシー券補助を充実してほしい

↓

③ 交通事業者、国、県等との協議、調整

◆再編案
- **支線バス路線２線を廃止し、小口線は維持。**
- **デマンドタクシーを導入**

↓

④ 再編案で再度住民説明会（令和2年7月～8月）

交通体系新旧表

旧体系	新体系
支線バス（小口線）	支線バス（小口線）
支線バス（玉置口線、篠尾線）	デマンドタクシー
行政バス（町内4方面）	
診療所送迎（屋敷方面）	
スクールバス	スクールバス（一部路線バスを利用）
路線バス（川丈線）	路線バス（川丈線）
医療センター通院タクシー	医療センター通院タクシー
タクシー、福祉タクシー券	タクシー、福祉タクシー券

住民アンケートとヒアリングでデマンドタクシーを導入

住民アンケートの結果を踏まえて作成した素案が民間バス事業者の支線路線バス３線（小口線、篠尾線、玉置口線）を廃止し、その代替交通としてのデマンドタクシーの導入です。その後、再編素案について住民の意見を直接聞くために、熊野川町で住民ヒアリングを実施し、再編素案の説明及び住民意見の吸い上げを行いました（**資料1②**）。

実施期間は令和元年10月4日から23日までの間の6日間に12会場で実施。合計106名に参加頂きました。ヒアリングでは、運賃について100円均一運賃にして負担を少なくして欲しいと言った意見が多く出され、運行面では熊野川町内だけでなく、新宮市街地や生活圏である近隣の町、熊野市や田辺市本宮町への直行便、休日も運行してほ

しいなどの意見が出されました。また、行政バスなどの市の交通事業については、医療センターへの送迎事業の継続や一部地区への行政バスの継続、高齢者へのタクシー券補助事業の内容拡充など、すでにある交通事業の継続や事業内容の拡充についての意見がありました。さらにデマンドタクシーでは、熊野川町小口方面の熊野古道へ訪れる観光客の移動需要を補えないことから、定期路線が必要などの意見が出されました。

ヒアリングでは様々な意見をいただきましたが、デマンドタクシーの導入について、反対の意見はほとんど見られず、便利になることで好意的に受け止めていただいた印象でした。一部電話予約に対する抵抗があるようでしたが、事前の電話予約でその都度運行ルートを決定し、利用便数がバスより増えることなど、これまでよりも便利になるということで、一定の理解を得ることができたように思います。

住民の要望としては、好きな時間に行きたいところへ安い運賃で行きたいというものですが、住民の利便性と民間事業者とのバランスを取り、最終的にデマンドタクシー含め、熊野川町の公共交通体系を整備していくということで交通事業者、国や県などの関係機関との協議調整を行い、再編案を作成いたしました（**資料１③**）。

資料２　熊野川町デマンドタクシー広報チラシより

熊野川町デマンドタクシー運行内容

（予約先）熊野第一交通株式会社

☎ 0735－22－6313　※運行日の1か月前から予約できます

受付時間：午前7時から午後7時まで

○運行ダイヤ（毎日運行※熊野川行政局を出発する時間です）

１便	２便	３便	４便	５便	６便	７便	８便
7：00	8：00	9：00	10：30	12：00	13：30	15：40	16：40
前日までに予約		出発時間の１時間前までに予約					

○目的地（乗降できる場所）　※移動経路は3種類
①自宅⇒目的地　②目的地⇒自宅　③目的地⇒目的地

公的施設など	熊野川行政局、熊野川町保健センター、熊野川小学校、熊野川中学校、三津ノ保育所 新宮市熊野川Ｂ＆Ｇ海洋センター、熊野川ドーム、さつき公園、若者広場、小口自然の家、熊野市役所紀和庁舎、瀞峡めぐり乗船場（玉置口）
郵便局	日足郵便局、九重郵便局、小口郵便局、敷屋簡易郵便局
診療所	熊野川診療所、小口出張診療所、玉置口出張診療所
福祉施設	グループホーム開門荘、杉の郷、特別養護老人ホーム熊野川園
理美容	やわらぎ美容室、さくら美容室、理容テル
買い物・飲食など	ふれあい商店、中口商店、南方商店、浜口商店、さつき温泉、Bookcafe kuju サンサロ・カフェ、喫茶みどり、かあちゃんの店、富士、福屋、川舟センター、道の駅瀞峡街道熊野川（田長）、瀞峡めぐりの里熊野川（志古）
バス停	道の駅熊野川、山本、能城、神丸、熊野川小学校前、日足、志古、尾頭、音川、宮井、宮井大橋、高津橋
集会所	上長井集会所、滝本集会所、鎌塚集会所、西集会所、東集会所、大山集会所、小口中央会館、赤木集会所、赤木僻地集会所、谷口集会所、椋井集会所、日足相須集会所、神丸集会所、能城集会所、山本集会所、田長集会所、日足多目的集会所、志古集会所、尾頭集会所、音川集会所、九重集会所、嶋津集会所、東敷屋集会所、敷屋中央会館、山手集会所、篠尾集会所、和田向集会所、宮井集会所、相須集会所、四瀧集会所

再編案としては、支線路線バス２線（篠尾線、玉置口線）の廃止と小口線の維持、廃止路線などの代替交通として、デマンドタクシーの導入となります。小口線は観光客の利用が多く、デマンドタクシーでは乗客の積み残しの懸念があるため、小口線のみ路線バスの運行を維持することで調整を行いました。具体的には次の５体系としました。

１．町内の移動手段としてデマンドタクシー（熊野川町内全域※一部町外運行）。２．広域幹線路線バス（町外への移動手段）。３．スクールバス。４．観光客の移動手段で小口線を維持。５．タクシー、通院タクシーとなっております。

再編案につきましては、住民説明会を令和２年７月６日から８月12日までの８日間、14カ所で実施。合計99名の住民の方に参加いただきました（**資料１④**）。

住民説明会では一部運行内容の拡充などの要望があり、運行開始後も改善できるところを改善していくとし、再編案については特に反対意見もなく、デマンドタクシーの利用方法についての質問が主でした。

住民説明会後は再編案を元に関係機関と実施に向け調整を行い、令和２年10月よりデマンドタクシーを運行しています。

熊野川町デマンドタクシーについて

デマンドタクシーとは事前予約制の乗合タクシー（**資料２**）で、熊野川町内の移動手段、幹線路線バスへの接続を目的とした公共交通です。熊野川行政局を出発し、自宅または自宅周辺とあらかじめ設定している目的地間を送迎いたします。

運賃は１回の利用ごとに１００円。保護者同乗の場合、未就学児は無料です。運行エリアは熊野川町全域、一部町外運行もあります。運行ルートは予約状況に応じ、毎回設定をします。運行日は毎日運行、留意事項としましては、利用するには事前に電話予約が必要なことや１台に乗り合わせる場合があることなどです。

運行ダイヤは１便から８便まで。１便と２便は、前日ま

での予約が必要ですが、３便目から８便については１時間前までの予約で利用が可能です。

資料２に記載している運行ダイヤは、熊野川行政局を出発する時間になりますので、ご自身で目的地に着きたい時間から逆算して出発する便を予約する必要があります。

目的地、乗降可能場所については、公的施設や郵便局、診療所など熊野川町の主要施設はほとんど網羅し、移動経路は自宅から目的地、目的地から自宅、目的地から目的地の３種類となります。

熊野川町のデマンドタクシー

乗り合わせの可能性があることや、時間が決まっていること、目的地が設定されていることなどが一般のタクシーと違う点ですが、各地域の集会所など目的地も幅広く設定し利用し易くなっています。

導入後の状況ですが、令和３年度は２，６４９人、１日あたり平均７人の乗車となっています。約４割が通院目的の利用となっていますが、バスの乗り換えや買い物などの利用も多く、通学や、飲食店や温泉施設への利用も見られるため、幅広く活用していただいていると感じています。

デマンドタクシー運行開始後も住民の皆様の声を聞いて、より良いものとなるよう、ダイヤ改正など適時改善を行っています。この熊野川町デマンドタクシーの導入によって、交通不便地域や交通空白地域の解消、交通手段の利便性向上が図られ、地域の高齢者などの日常生活に必要不可欠な移動手段が確保されるとともに、幹線路線バスの接続強化による広域移動の円滑化に伴い、外出促進・地域活性化にもつながる事を期待しています。今後も交通施策始め、住民の皆様が元気で、心豊かに暮らせる街づくりを推進していきたいと思います。

参加者からの質問

質問：紀美野町でもデマンドタクシーが求められているのですが、報告の中で目的地が決められている。これはどうなのかと、それと予算と財源についてお聞きしたいと思います。

報告者：デマンドタクシーは熊野川町内を主に運行しています。目的地については、町内の主な施設について設定をしておりまして、適時見直しを行っています。住民から意見がありましたら、検討をしています。

予算につきましては、事業費が年間１，２００万円ほどになります。

市からの委託金の内、市の負担は１／２、国の補助金１／２という形です。

質問：国の補助金というのはどんな補助金ですか。

報告者：国の補助金は、国土交通省の国庫補助金で、正式には「地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金」で、毎年申請をしています。

質問：デマンドタクシー導入前と導入後の市からの持ち出しというか、負担はどうなりましたか。

報告者：負担については、大きく増えたということはございません。

質問：１日の利用者は平均７人というお話でしたが令和２年スタートからの推移や、今後の展望についてどう考えているのか教えてください。

報告者：令和３年度は１日平均７名、令和２年度と比較して月当たり40名ほど増加している状況です。２年度が月平均６人、令和３年度の実績ですと２，６４９人に利用していただいています。今後につきましても、熊野川町の皆さんの声も引き続き聞いて、地域にあった内容に協議していきたいと思っています。

質問：事業を始めるに当たって、自治会から要望があったとか、住民運動があって、市として取り組むという事になったのでしょうか。

報告者：市としても取り組むべき問題との認識がある中、住民からのより便利な交通体系確保に対する意見もあったことで、進んでいったものです。

質問：市の方が、地域の状況を感じてその改善のために、アンケートから取り組んだ。そういうことでよろしいのですよね。もう一つ条件ですが、例えば住民税非課税とか、年齢とかそういう所はないのですよね？

報告者：デマンドタクシーにつきましては、年齢制限や、熊野川町在住との制限はありません。土日等も運行していますので、観光客の方にも周知して利用していただければと思っています。

質問：実施にあたって、既存のバス路線を廃止するバス会社や、デマンドタクシーを運営するタクシー会社への委託の話し合いは順調に進んだのでしょうか。

報告者：既存の事業者との話し合いも行いまして、「住民の利便性向上のため」との共通認識のもとご理解をいただいております。

司会：時間の関係もありますので、次の報告に進めさせていただきたいと思います。新宮市のみなさまありがとうございました。

給食スマイルプロジェクト

～県産小麦そだて隊！～

給食スマイルプロジェクト代表　多田寿江

学校給食のパンを発がん性が危惧されるグリホサートが検出された輸入小麦でなく、安心安全な国産小麦で提供出来たらと、自分たちで小麦を作り、給食のパンとして提供する運動を行っている給食スマイルプロジェクト代表の多田さんに投稿していただきました。

多田寿江さん

私達は学校給食のパンを安心安全な小麦で作り、子ども達に笑顔で食べてもらいたい！そんな気持ちで２０２０年に活動をスタートしました。

メンバーは子育て中のママパパや、有機農業に関心のある人達です。慣れない農作業で体はボロボロ（笑）夏は滝のような汗を流しています。仕事をしているメンバーがほとんどで家事に育児に忙しい中この活動を始めたのには理由があります。

給食会との懇談で小麦づくりに挑戦

２０１９年の７月私達は学校給食のパンに発がん性物質のグリホサートが含まれている事を農民連食品分析センターの調査で知りました。

除草剤の主成分として使われているグリホサートはオーストリアやチェコでは全面使用禁止となり、ベトナムは輸入を禁止、アメリカ国内でも市民運動が広がり、店頭に置かなくなった小売店も出始めています。

日本の小麦のグリホサート残留基準値は30ppmですが、これは厚生労働省が２０１７年、海外の基準値より厳しかったそれまでの５ppmから、国際基準のアメリカの30ppmに合わせるため６倍に緩和したからです。

給食は安全だと思っていた私達は驚いて母親３人で和歌山県の学校給食や食育を推進している学校給食会（以下給食会）さんと懇談させてもらいました。

給食会さんにこの事を伝えると「国が輸入している小麦なので安全だと思っていた」と驚かれていました。給食会さんに、国産の小麦にしてもらえないかと聞くと「輸入小麦より2倍以上高くなるので難しい」。全て米飯給食にできないかと聞くと「給食用のパンを焼いてくれているパン屋さんがいるのでできない」。米粉パンにできないかと聞くと「和歌山には製粉所がないので県産米を米粉にする為には大阪に米を送ってまた和歌山に戻さないといけない。CO_2排出の問題もある」と全て解決策にはなりませんでした。

では、和歌山県の耕作放棄地を使って和歌山県産の小麦を作るのはどうですか？と言ったところ「地産地消になるので是非和歌山県産小麦があれば使いたい」と言ってもらえたので、それをきっかけに農業を全くした事がないママ達の小麦作りがスタートする事になりました！

メンバーのFacebookの呼びかけで海南市の耕作放棄地を使わせてもらい、アドバイザーとして小麦作りの先輩である和歌山市農民組合の貴志さんにも協力していただける事になりました。

しかし、スマイルプロジェクトには予算が全くなかったので和歌山県の農業農村活性化支援モデル事業に申し込みました。３年間の取り組みで１年目は小麦を育てる。２年目は畑の面積を広げる。小麦仲間を増やして参加してもらう。３年目は小麦仲間の畑に私達がお手伝いにいかせてもらう事などを目標にしました。

私達ママパパ達が継続的に取り組む事は難しいので和歌山県内に小麦仲間を増やして県産小麦が給食に必要な分を作れるようになる事が最終目標です。

自分たちで補助金を探し、手探りで小麦づくりを

モデル事業は３年間で１００万円予算がつきますがそれだけではとても足りません。

和歌山県には小麦農家に対する補助は一切なく、補助金をもらえるようにする事が小麦作りを広める為に必要なので県や和歌山市にお願いに行きました。

安全な小麦で給食のパンが作れるようになるまでは、全

て米飯給食にするか、パン屋さんとの関係があるなら高くても国産小麦を使うのを各自治体に県から指導や依頼してもらいたい事と、農民連食品分析センターの調査によると市販のパンから国産小麦使用と書かれたもの以外はグリホサートが検出されているので子ども達の体が心配な事も伝えました。

県の補助金がないなら国からの補助金を受けられないか動く事にしました。

初めての小麦作りスタート！

２０２０年 Facebook にスマイルプロジェクトのページを作りボランティアを呼びかけました。

６月。草刈機も使った事もないメンバー、子ども達も汗だくでの作業です。イノシシ避けのメッシュ貼りや、初めてトラクターにも乗って土を耕し、畝を作り、溝をつけました。元々田んぼなので水はけが悪く溝に足がはまってしまう事も！

11月の種まきは子ども達も沢山集まってくれました。まく畑の面積を測って石灰で線を引きブロックに分けタネも計り手まきでまいていきました。その後はトントンとクワで土を叩いて覆土して行きます。泥だんごのような土でうまくいかず苦労しました。素人の私達には全てが初めてで本当に大変！農家さんのありがたみがよくわかりました。月末には芽がでて感動しました。

２年目　ごんべえで種を播く

県内に賛同してくれる小麦仲間が

11月に貴志さんが作った小麦を貴志南小学校（和歌山市）のパンに使ってもらえる事になり、和歌山県産小麦が初めて給食に登場しました。テレビで放送されたので日高川町（旧美山村）の農家さんからも小麦を使いたいと連絡があり給食に提供されました。それをきっかけに日高川町の農家さんも一緒に作りたいと言ってくださり、更に和歌山市の山口地区でも小麦作りがスタートする事に！小麦仲間が増え始めチームとして活動できるようになりました。

２０２１年１月麦ふみイベントに50名が参加。取材も来てくださり全国的に活動を知ってもらえるようになりました。

和歌山県産小麦を普及させるにあたって県内に製粉所がないことが難題です。給食会さんの繋がりで奈良にある旭製粉を見学に行きました。大型の製粉機なので和歌山県産小麦の量では難しく断念。しかし和歌山県産の小麦を作る事は応援したいと言ってくださり、３月には旭製粉さんが農業技術の指導研究を行う農研機構の方を和歌山に呼んでくれて、畑を見てもらいアドバイスをもらえました。

暖かくなると今度は雑草の問題が！有機栽培で除草剤も使わないので畑に行けるメンバーは毎週草抜きに。暑い中雑草と、小麦を区別しながらなので思うように進まず抜いても抜いても生えてくる雑草との格闘は1番大変な期間でした。

５月いよいよ収穫です。黄金色の小麦畑になり、和歌山は小麦作りに向かないと言われていたけれど素人の私達が作れた事に感動！沢山のボランティアさんに手刈りも経験してもらえました。

バインダーの登場で収穫もスムーズに。やっぱり機械はすごいです。ハーベスターで脱穀し小麦を触ってみるともちもちでびっくりしました。落穂拾いもして、最後は麦わらを集めて子ども達に登ってもらい記念撮影。小麦は貴志さんの自宅に運んで乾燥機にかけてもらいました。

１年目スマイル畑２・３反で獲れた小麦は３５３kgでした！県内４ヶ所で作られた小麦を保管する為に有田川町の平木米穀店さんが協力してくださり兵庫県の製粉所を紹介していただき、更にその配送も引き受けてくれました。

黄金に輝くスマイル小麦

スマイルパンがいよいよ給食に！

11月いよいよスマイルパンが給食に初登場しました！膨らみが足りなかったので国産小麦を混ぜて焼いてもらい86校で提供されました。追加で外国産小麦を混ぜた分も１月に出してもらい合わせて１０４校で食べてもらう事ができました。

コロナ禍で学校には行けませんでしたが続々と感想が届き「美味しかった」「いい香りだった」「もちもちしていた」「いつもこのパンがいい」と喜んでもらえて頑張って良かったと皆で感動しました。

11月22日には北野上小学校（海南市）で収穫祭のイベン

トを開催。旭製粉さんがスマイル小麦１００％でパンとお菓子を焼いてくださったので来場者にプレゼントしました。収穫までのレポートを展示し、今まで取り上げていただいた動画を観てもらいました。ボランティアで畑に来てくれた方も続々と来場してくださり喜びあいました。

2年目に突入

１年目の反省をいかして水はけを良くする事と、雑草対策に気をつけました。

12月種まき。手まきでバラバラにタネをまくと雑草対策が大変だったので『ごんべえ』という播種機を使って筋まきにしました。簡単そうに思いましたがスマイル畑の土はやはり水気が多いので力がいり大変でした。子ども達の成長がすごくて2年目は大活躍してくれました。

２０２２年１月。畑を１反広げる事に決まり、畝たてから種まきまで１日で済ませました。

２月麦ふみ。５月草抜きイベントと兼ねて子ども達に『メンバーズカード』をプレゼント。畑に来てくれた子どもさんにシールを貯めていってもらいます。給食にパンが出る日には学校でメンバーズカードを見せて「私が作った小麦でできたパンです！」と言ってもらえたらいいなと思い作りました。生き物探しのチェックシートも作り畑を楽しんでもらいました。

６月２度目の収穫。昨年より１１０kg増の４６３kgの小麦を収穫。畑を広げたもののそこは１月に種まきしたこともあり、あまり収量はなかったように思うので、『ごんべえ』で筋まきにしたことが良かったのだと思います！

11月２年目のスマイルパンは県産小麦１００％で給食に登場です！県内で約５ｔの小麦が獲れたので沢山の子ども達に食べてもらえるのが嬉しいです！

12月とうとう国の補助金が出ました！〝畑作物の直接支払交付金〟（ゲタ対策）です。

和歌山県では麦の〝産地品種銘柄〟も、麦を検査する〝登録検査機関〟もないために交付金を受けられませんでしたが一定の手続きをとれば受けられるように！チームの方々や農民連役員、給食会、平木米穀店の皆さんのお陰です。これで県内の大規模米農家さんも小麦作りができる仕組みが整ったことになります。

すでに小麦作りで所得を増やしたい大農家の方もいるそうなので作られる方が増えるのを期待したいです！

３度目の種まきも済みスマイルも３年目頑張ります！

収穫後の麦わらと子ども達

ご協力のお願い

輸入の小麦粉が約70円／kgに対し、県産小麦は採算度外視で７５０～８６０円／kgです。この２年自治体の負担も保護者の負担も増やさずに県産のパンを提供することができたのは給食会さんが全額負担してくれたからです。

小麦の作り手が携わるのは製粉まで、その後給食として提供できるかは、給食会さんにおまかせで、買い取り→製粉後の検査と保管先の手配→各パン屋さんへの依頼→教育委員会や校長先生へのおことわりetc.を担っていただいています。

１年目の小麦買い取り費用は約90万円。２年目は約１９０万です。行政からの予算が出れば１番ですが（引き続き働きかけていきます）今後も続けていく為に給食会さんへの寄附のお願いをさせてください。１口５０００円からですが、スマイルでは１口１０００円からでお預かりさせていただけますので、Facebook『学校給食スマイルプロジェクト』にメッセージをお願いします。子ども達の笑顔と健康を守る為によろしくお願いします。

１年目の収穫祭　「しんぶん赤旗」提供

給食会さんの HP に
「寄附のお願い」が公開されています。
https://www.waka-gk.jp/product_download_Donation.html

県下各地から④

安心・安全な水道行政は、市民に支えられてこそ

和歌山市市会議員　南畑幸代

県下各地の運動や話題の投稿をお願いしました。今回は和歌山市で、水管橋崩落事故から水道施設の見直しを行う、新水道事業ビジョンと水道料金問題についてです。

南畑幸代さん

２０２１年10月の六十谷水管橋崩落事故を受け、和歌山市は水道施設の見直しを進めていて「和歌山市新水道事業ビジョン検討会議」を昨年８月に立ち上げました。紀の川北部地域の安定供給のために令和４年度中に施設整備方針を決定し、早期の事業着手を目指すとして、昨年10月に水道施設の在り方についてのパブリックコメントを実施しました。

パブリックコメント「送水管の複線化・新浄水場建設（案）」で２案を示し市民に意見を求めました。

和歌山市の水道事業の現況

水道事業の現状や会計の見通しを次のように説明しています。

①水を供給する浄水場は、以前の６カ所から現在２カ所（加納、出島浄水場）に集約し、７割の水を供給する加納浄水場は、老朽化のため更新工事中（令和５年度～令和20年度）で供給能力の向上を図り、出島浄水場を廃止し１か所で給水する計画。改修事業費は約４００億円。

②水需要は、和歌山市の人口ビジョンから現在の35万人から令和20年には33万人になるとし、水需要もそれに伴い減少すると予測しています。

③水道会計の見通しは、現在は黒字ですが、水道料金収入は人口減や経済低迷により毎年料金収入が減少し、施設更新事業費等を加味すると、令和６年度に赤字が生じ令和20年度には１４０億円の累積赤字となる見込みで不足額解消には16・５％の改定が必要。４年ごとに行う水道料金算定で、令和７年から令和10年までの料金は平均15・７％の引き上げが必要となる見通し。

検討案について

施設整備については、多大な費用が必要となるが、紀の川北部地域の安定供給のため複線化の早期の実施。また、北部新浄水場を建設することにより、給水リスクの低減を図れるため第２案に沿った施設整備が最善との考えを示しました。

案１　送水管の複線化		案２　送水管の複線化＋北部新浄水場	
加納浄水場から紀の川北部地域に送水する送水管を、水管橋に加え、シールド工法による地中配管で複線化する。		案１に加え、紀の川北部地域に新たな浄水場を建設する。加納浄水場については供給能力を調整する。	
工事期間	Ｒ５年～Ｒ９年	工事期間	Ｒ５年～Ｒ９年（複線化） R10年～ R20年度（浄水場建設）
事業費	約25億円	事業費	約235億円
水道料金への影響	約１％ UP	水道料金への影響	約１％ UP（Ｒ７年度～Ｒ10年度）それ以降約６％ＵＰ

パブリックコメントについて

パブリックコメントには１２４件の意見があり、案１に賛成が20件（内値上げなしなら賛成５件）、案２に賛成57件（内値上げなしなら賛成15件）、両方に反対５件、その他さまざまな意見42件がよせられました。これを受けて、11月の「新水道事業ビジョン検討会議」で、送水管の複線化については実施の了解を得て、北部浄水場建設については、追加の説明が求められたという事です。

また、12月に水道料金改定を協議する「和歌山市水道料金検討会議」が新たに作られ論議が始まっています。

市民の負担軽減と丁寧な説明を！

12月和歌山市議会の一般質問でこの問題を取り上げ質問しました。

今回の「新水道事業ビジョン」では、基本改定率15・７％の料金引き上げが大きなウエイトを占め、北部地域への安定供給のために水道料金の改定が必要というイメージに隠されている感があり、誠意をもって市民に理解を求めるべきだとしました。

また、引き上げを抑えるために、補助金の活用や配管の水漏を防止し有水率向上の手立てを求めました。

当局は、「新水道事業ビジョン」や「水道料金検討会議」は公開で論議をしているので、説明会等は予定していない。引き上げを抑えるための補助金等について国に働き掛けるとともに、漏水防止の取り組みについては、引き続き体制の確保に努力するとの回答でした。

私は、監査委員からの意見書で「水管橋崩落事故で失ったのは、金銭だけでないことを認識し、市民からの信頼を失ったことを重く受け止め、今後はどのような業務においても丁寧に対処し、少しずつ実績を積み重ねることで、市民からの信頼回復に勤めなければならない」と記述されたことを紹介し、説明会開催も含め市民への丁寧な説明を求めるとともに、負担軽減に向けた手立てを要求しました。

今年度開かれる「新水道事業ビジョン検討会議」や「水道料金検討会議」を傍聴するなど、住民が必要な情報から置き去りにされないよう取り組んでいきます。